

映画科学府研究

映画科学研究

トーキー、経営、検閲、配給、シナリオ作法、映画技法……。実践から理論まで、昭和初期における映画界の根本的な問題を研究。日本における映画学の原点の一つ、『映画科学研究』全巻を収録。

◆監修・解説◆
アaron・ジェロー
Aaron Gerow イェール大学教授



全5巻



映画科学研究

全5巻

[監修・解説] アaron・ジェロー ●揃定価：本体125,000円+税 ISBN978-4-8433-5577-0 C3374 A5判上製/クロス装/カバー

全5巻の構成

2019年9月刊行予定

- 1● 映画科学研究 第1巻 (1928年6月) / 第2巻 (1928年12月) 定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-5578-7
- 2● 映画科学研究 第3巻 (1929年9月) / 第4巻 (1929年12月) 定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-5579-4
- 3● 映画科学研究 第5巻 (1930年4月) / 第6巻 (1930年10月) 定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-5580-0
- 4● 映画科学研究 第7巻 (1930年12月) / 第8巻 (1931年4月) 定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-5581-7
- 5● 映画科学研究 第9巻 (1931年9月) / 第10巻 (1932年9月) 定価：本体25,000円+税 ISBN978-4-8433-5582-4

本書の特色

- 現場人による最初の科学的研究の試み
昭和初期、当時の最先端を走っていた映画監督・村田実と牛原虚彦監修のもと、1928年から1932年まで、全10号が刊行された、現場人による本格的な映画の「科学的」研究誌。
- 海外の映画理論も紹介
アメリカ、フランス、ドイツ、ソビエト等々、最新理論を紹介。
- 当時の映画界の根本的な問題を研究
各号において、当時公開された映画まるごと一本について詳細に分析するとともに、撮影所や映画館経営、検閲、映画配給、シナリオの作法、映画技法の活用方法等々、実践から理論的な問題まで幅広く取り上げる。
- 最終巻末に監修者による詳細な解題を附す

日本戦前映画論集

—映画理論の再発見— ●定価：本体4,800円+税
[監修] アaron・ジェロー / 岩本憲児 / マーク・ノース
日本の重要な「映画理論」を初めて体系的に編纂、気鋭研究者が日本の「映画理論」を再検討。各テーマごとに解説を附す。

日本映画論言説大系 全30巻

■監修 牧野 守 映画生誕百余年の足跡を集成する映像理論詞華集。
第I期 戦時下の映画統制期 全10巻 ●揃定価：本体150,000円+税
第II期 映画のモダニズム期 全10巻 ●揃定価：本体184,000円+税
第III期 活動写真の草創期 全10巻 ●揃定価：本体247,000円+税

国際映画新聞 全67巻・別巻1

[監修] 東京国立近代美術館フィルムセンター 国内唯一の映画経済誌という当時の濃い文句の通り、封切リストや各種統計資料、輸入配給事業から内務省などの当事者たちの声も収録。当時の状況を伝えた業界誌 (1927~1940)。 ●揃定価：本体1,702,000円+税

最尖端民衆娯楽映画文献資料集 全18巻

[監修] 牧野 守 明治から昭和初期までの日本映画と大衆娯楽、風俗に関する稀少文献を集成し、日本のサブカルチャーを再検証。大衆嗜好、社会現象、女優、表現と女性美、検閲等々から新しい視点を提示。 ●揃定価：本体263,000円+税



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL .03 (5296) 0491
FAX.03 (5296) 0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

★特にお薦めしたい方 映画史、メディア史、歴史学、思想史、社会史、政治史、近代史、文化史、風俗史などの研究者・研究機関。大学図書館。映像・メディア関係専門学校。海外の日本学関連研究施設など。

ご注文書	ゆまに書房 Tel.03(5296)0491 / Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
	映画科学研究 全5巻 揃定価：本体125,000円+税 ISBN978-4-8433-5577-0 C3374		
お名前	TEL ()		
ご住所			

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。

世界的な傑作を数多く生み出した日本映画における豊かな歴史は、地道な努力と土台作りの成果によるものであった。映画作家は撮影所などで先輩を見習い、訓練されることで実践的に映画芸術を身につけるだけにとどまらなかった。多くの場合、映画芸術家は映画を研究・分析し、またその成果を撮影所内外に発表した。『映画科学研究』はその歴史の画的な試み――現場人による本格的な映画の「科学的」研究誌であった。昭和初期、当時の最先端を走っていた映画監督の村田実と牛原虚彦の監修のもと、溝口健二、小津安二郎、依田義賢、伊丹万作、夏川静江、碧川道夫、鈴木伝明、根岸耕一や森岩雄などといった監督から俳優まで映画製作に携わった豪華な面々のほか、田中三郎、石巻良夫、池田寿夫、岸松雄、双葉十三郎などの評論家加わり、当時の映画界の根本的な問題を研究。それらはトーキーの導入、撮影所や映画館の経営、検閲、映画配給、シナリオの作法、映画技法の活用方法、映画と他芸術の関係に至るまで、実践から理論的な問題までが取り上げられた。注目すべきは、各号において当時公開された映画まるごと一本について詳細に分析されている点である。『映画科学研究』は、まさに日本における映画学の原点の一つである。(イェール大学教授)

●見本(約50%に縮小)。

子供も泣きもする。この一隊から馬の上の一隊が離れて馬を走らせ前方を偵察して上へ。

場内 D.E. [地球屋敷] 今までは有史以前の人間の生活や西洋の科學の発明について想像したので。この機器の發明は、人類を感嘆したのと同じに人類は一つ土地に定住するようになり、牧畜のため羊も飼育せざるを得なくなり、牧羊の土地に完全に對つての動物 雑種を一つ加へて、文字の完成は、人類に文明を贈り、いよいよこれから歴史の時代に入る。地球はめぐりめぐりして、日本歴史の一頁、戰國時代が参りました。

新時代映画に関する考察

伊丹 萬 作

かゝるが故にと言ふ様な文章は餘り書いた覚えが無い。従つてうまく脚を濁し得るかどうかわざだ覺束ない。扱へられた問題は新時代映画に關する考察と言ふのである。

新時代映画と言ふのは新時代の映画と言ふ意味にも取れるし、新しい時代映画と言ふ意味にも解釋が出来る。差し當つて之を孰れか一方に決めなければならぬ。僕は自分の調査を考慮して之を後者の意味に取る。乃至是から新しい映画に關する考察を始めやうと言ふのである。所でその前



- 各巻のおもな収録記事
1 映画科学研究 第1巻 映画科学研究会(発行人・村田実) 一九二八年六月発行
2 映画科学研究 第2巻 映画科学研究会(発行人・岡部龍) 一九二八年十二月発行
3 映画科学研究 第3巻 映画科学研究会(発行人・岡部龍) 一九二九年九月発行
4 映画科学研究 第4巻 往來社(発行人・北川冬彦) 一九二九年十二月発行
5 映画科学研究 第5巻 往來社(発行人・岡崎真雄) 一九三〇年四月発行
6 映画科学研究 第6巻 往來社(発行人・岡崎真雄) 一九三〇年十月発行
7 映画科学研究 第7巻 往來社(発行人・山根次郎) 一九三〇年十二月発行
8 映画科学研究 第8巻 往來社(発行人・山根次郎) 一九三一年四月発行
9 映画科学研究 第9巻 往來社(発行人・山根次郎) 一九三一年九月発行
10 映画科学研究 第10巻 往來社(発行人・佐藤丑之助) 一九三二年九月発行

- 1 現像液の研究(増谷麟)
2 発声映画企業論(石巻良夫)
3 現象液の研究(増谷麟)
4 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
5 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
6 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
7 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
8 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
9 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
10 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
11 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
12 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
13 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
14 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)
15 山田冷笑/ステイル・ワークに対する私見(堀野正雄)